

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価 (4点満点)	学校関係者からいただいた 評価・意見等	改善策 左欄(学校関係者からいただいた評価・意見等)を踏まえての改善策には、 工藤
心豊かにたくましく生きる 神戸の子供を育てる	やさしくも明るくあたる子育て	夢 「自信をもち、挑戦しつづける態度の育成」	楽しい学校生活	学級や学年のイベント、委員会クラブをはじめとした特別活動の充実、学校行事の特色化等を行い、様々な活動の機会をつくった。	3.4	自分で考えていくことをどう引き出すか。それは教えるのではない。引き出す機会をふやしてはどうか。	特別活動に力を入れ、児童が自ら考え取り組み機会を増やしていく。
			読書習慣の確立	読書ボランティアによる読み聞かせ、学級文庫の活用、国語における並行読書など本に親しむ機会を工夫した。	2.1	家庭での様子しか保護者は分からない。その結果の数値ではないか。家庭での読書は保護者にかかっている。	来年度から配置される学校司書を有効活用しながら、保護者にも読書の習慣化を呼び掛けていく。読書週間を設け、読書の楽しさを広げていく。
			家庭学習の習慣化	漢字計算の「ドリル学習」だけでなく、各学年の発達の段階に応じて「自主学習」を進め、自ら学習に向かう姿を目指した。	2.7	教員が、「まだやれる」と思っていることの表れの数字ではないか。子供は「やっている」と思っている。	3年生以上の「自主学習」をさらに充実できるよう、「ノート展覧会」や課題のヒント提示などを行っていく。
			分かる授業	GIGA端末の活用や子供たちが主体的に対話をする授業を目指し、授業公開や情報交換を行った。	3.4	教師の声が小さいのが気になった。GIGA端末をどんどん活用しようという雰囲気を感じている。	学級づくりと授業づくりを両輪とした研修体制を充実させていく。
		命 「基本的生活習慣の確立」	「だいちの約束」の徹底	「だいちの約束」を常掲するとともに、定期的に朝会指導等で取り上げ、こまめに意識化を図った。	3.2	きまりを、何回も先生が伝えないといけない。子供たちのストレスが溜まっているのではないかな。	まずは教員が共通理解し、地道に繰り返し指導を行っていく。
			規則正しい生活	連休や長期休暇に入る時等に各学級指導で生活を振り返った。また、スマホやゲームとの付き合い方について生徒指導担当が授業をした。	3.0	学校ができることは限られており、家庭の教育が大切。親子のコミュニケーションが取れていないのではないかな。	懇談会や学校ホームページ等を活用し、保護者にも直接規則正しい生活やスマホやゲームとの付き合い方を伝えていく。
			好き嫌いの食生活	毎週月曜日の朝会時に校長より旬の食べ物などの紹介を行った。また、ホームページや食育だよりなどで食の大切さを発信した。	3.1	給食について喜んで食べている様子が見える。	引き続き、給食一言クイズや朝会等をつかって「食」への意識を高めていくとともに、委員会活動などを通してよくについて考えていく。
			教師と児童の関係	日記や学級通信等、学級の実態に応じて取り組んだ。生活アンケートやいじめアンケートに丁寧に目を通し、気がかりな子には声をかけた。	3.4	マスクでの距離感も気になっている。引き続き丁寧に取り組んでいくことが大切。	引き続き、細やかなかわりを常に心がけていく。
	心 「人を思いやる心の育成」	思いやりある行動	道徳教育の充実を目指した。また、まずは教師が温かい言葉遣いやていねいなやりとりを目指した。	3.1	感謝日記を行い、普段の生活を見つめなおしてはどうか。	今年度に引き続き、教師の丁寧な言葉遣いや共感して話を聞く態度を心掛けていく。また、日記や振り返りカードを「感謝」の視点から書くことも取り入れていく。	
		気持ちよい挨拶・返事	毎朝と帰りに校門に複数の教員が立ち、あいさつや声掛けを行った。代表委員会による挨拶運動等も行った。	3.2	挨拶が不十分なところについては、教師の指導によることもあるが、保護者によることも大きい。継続的に取り組むことが大切。	教員の挨拶の活性化、委員会活動による挨拶運動、保護者への啓発を行っていく。	
	こまめに広げられた子供を育てる	主体的対話的で深い学びを実現するための授業改善	体づくり だいちマインドセット	「だいちっ子体操」を学期ごとに更新し、体づくり運動を継続的に行った。また、職員研修で取り上げ、全職員で共通理解した。	3.5	たいへんすばらしい。	チャレンジ精神と遊び心で、来年も発展させていく。教員で共通理解を深め、全校挙げての取組としていく。
			地域学習の充実	社会科の工場の学習や防災学習、地域を取り上げた総合的な学習などで、地域の人材を生かした教材開発を行った。	3.2	とても大切な内容。実際の子供たちの様子を見て学校の状況を知ってもらうことは、子供の地域学習を通して大人たちも相乗効果がある。	自校プランを充実させ、令和3年度の取組を継承・発展させていく。地域に学び、地域に育つ子を目指して、地域の人も巻き込んでいく。
			職員研修にて授業公開や公開された授業への意見交換を行った。公開される授業の数は少なめで十分な意見交換にはならなかった。	3.0	引き続き、取り組んでいってほしい。	学級づくりと授業づくりを両輪とした研修体制を充実させ、子供が力をつける授業を模索していく。	
安全・地域と共々に安心して子供を育てる	いじめ防止基本方針に基づきいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)		担任や学年はもちろんの事、生徒指導担当や関係職員、管理職も含めて迅速に報連相を行い組織的に対応できる体制で取り組んだ	3.3	保護者が「分からない」と答えている割合が高いのは、それだけわが子を安心して通わせているということと思う。悪い数値ではないのではないかな。	引き続き、細やかなかわりを常に心がけていく。	
			退勤時間を明確にし、職員が自らタイムマネジメントを行って仕事をできるようにした。	2.6	超過勤務時間の削減にもっと取り組んでほしい。人材確保が不可欠。人材を増やしてほしい。学校だけでできることは限られている。	人材の効果的な活用を模索続けるとともに、人材の確保への強い要求を委員会をはじめ各所にも伝えていく。	
			文科省や市教委の方針を踏まえながら、だいち小学校として効果的な感染症対策の在り方をこまめに職員で共通理解した。	3.5	引き続き、取り組んでいってほしい。	引き続き、保護者や子供の不安に寄り添いながら、教育活動の充実を目指して、細やかな対応を続けていく	
			毎日複数の記事のホームページへのアップやタイミングや回数を工夫したすぐるの発出を行った。	2.6	地域の情報発信の一つとしても活用して欲しい。	様々な活用方法を、引き続き模索しチャレンジしていく。	
			地域のたくさんの方に見守り隊として登下校時の安全を見守っていただいた。学校応援団でもさらに呼びかけた。	3.5	引き続き、取り組んでいってほしい。	さらに保護者や地域の方に力を貸していただき学校の教育活動を支えていただくために、協力要請を行っていくとともに保護者座談会等、保護者の声を聴く機会も模索する。	
			フォームズを使って、全児童から「だいちの約束」について、見直し、意見を集めた。				